

フィリピン・一人旅で得たもの

ヤング人材センター 神田 敬展 (26歳)



現地の子ども

「日本以外の社会を目にしたい。」日本の社会で生きづらさを感じている僕は、そんな想いを胸に、6月上旬、フィリピンのセブ島に43日間の一人旅に出た。

一年前、団体で行ったネパール、それまで外国に行ったことのない僕にとってはカルチャーショックだった。現地の人々の雰囲気、時間の流れ方、全てが、日本で感じたことのない世界だった。

そのネパールでは、初めての外国ということもあり、英語でのコミュニケーションが思うように出来ず、また普段日本でも周囲に対して心の中に人への壁を作ってしまう性格もあって、限られた時間とスケジュールの中で現地の人たちの輪の中に入りきれない時もあった。

そんなこともあり、カルチャーショックを受けながらも、少し物足りなさを感じていたネパール旅行だったので、いつか一人で自由に気楽に長時間過ごせる一人旅をしたいと思っていた。

楽しみでいっぱいの出発前であったが、セブ島到着後、いきなりトラブルが発生してしまい、平常心を失う…。なんと、予約していたホテルが閉まっていた泊まれない！



パンゴラオ島のアロナビーチ

周りに言葉が通じる相手がないというのは想像していたよりおっかないもので…日本に無事に帰れるかどうか不安になったりもした。

すっかり尻込みしてしまい、普段なら行動することを止めてしまいそうな自分であったが、「せっかくここまで来たからには」と気を引き締めて、せめてセブ島の雰囲気だけでも目に焼き付けて帰ろうと思い、とりあえず街の中をフラフラしてみることから始める。

それが一日過ぎ、二日過ぎ…何日かフラフラして気持ちが落ち着き始めた頃にふと気づく。「ここで暮らしている人達は、どこか穏やかでおおらかな雰囲気を持っている」すれ違う人、お店の店員、そして街全体の雰囲気、皆どこかゆるい雰囲気で陽気である。日本のようにせかせかしていない。



陽気な焼き鳥屋さん

そんなセブ島の空気の中で生活していると、不安やどこかで作ってしまう自分の中の壁が薄れていき、徐々に積極的に行動できるようになった。



トライシクル

セブ島以外の島、有名な観光地、田舎の方…現地の人達に助けをいただく事もあり、いい人達との出会いもあった。

パンゴラオ島での出来事。地元の人が使っているバスで帰ろうと待っている時、地元のバイクタクシー（フィリピンでたまに見かけるバイクの二人乗りで運行しているタクシー）の運転手が行き先を聞きながら乗っていかないと聞いてきた。その時は、ややぶっきらぼうに断ってしまい、地元のバスを待った。しかし待っていたバスが思っていた方向と逆から来てしまい、全く気付かずバスが通り過ぎようとした。その時、まだ近くにいたその運転手がバスを止めてくれ、遠くから「おーい、君の乗るバスはこれだぞー」と教えてくれた。今でもその時の笑顔は忘れられない。「この場所ではこういう人への親切が日常の一部として、ごく自然に成り立っているんだ」と思わせるような自然で陽気な笑顔だった。



親切なタクシーの運転手さんと

現地の人達が持っている「陽気でゆるい空気」が僕の中にあった不安や人への壁を薄めてくれたみたいだった。旅の中で出会った人々には本当に感謝している。



他島からの移住者の住宅群。手前は貝を拾う子ども達

あれからもう3カ月近く経とうとしている。日本に帰ってきてからフィリピンとの空気の違いに苦しめられることも多かったが、それでも旅の中で得たものは大きかったと思う。旅に行く前と比べて自分がまた変わったと思う。

この先またどんな世界を目に出来るか、どんなものと出会えるのか、今はそういう事が楽しみでたまらない。

ヤング人材センター は

若者への仕事創出と、地域の隠れたニーズとニーズの出会いをめざしています。

草取り、ちょっとした力仕事、ペンキ塗り、障子・襖の張替え等々、すきま仕事、単発仕事、内職等、プロに頼むには「いまひとつ予算が…」 「この程度のことでは…」と遠慮なさっている方、ぜひご一報を！

(090-5822-8462 山口 実)

ヤング人材センターについての詳細は、前号の「育ちと学び NO.5」をご覧ください。